

ごあいさつ

2023年、雪梁舎美術館は設立30周年を迎えます。この30年という節目の年に、長年の思いであったマイセン磁器の収蔵品図録を完成することができて、大変嬉しく感じています。これを記念して展覧会を開催いたします。

雪梁舎美術館は開館以来、常設展示室「マイセンの部屋」において、マイセン磁器を常時展示してまいりました。そして定期的にテーマを設け、企画展を開催しています。1800年代のアンティークマイセンを中心に収集し、今やその収蔵数は300作品を超え、充実したコレクションとなりました。

雪梁舎がマイセン磁器をコレクションするようになったのは、美術館の設立者である捧賢一前理事長のドイツ訪問がきっかけです。そこで日本の柿右衛門風の絵付けが施されたマイセン磁器と出会い、感動し、数点を購入しました。それ以来、マイセンの美しさと芸術性、洗練された技術、多様な作品群の面白さに魅了され、コレクションを重ねていきました。夫人とともにギャラリーを訪れたり、海外からの輸入があったりと、徐々にコレクションが増えていきました。なかでも猿の楽隊21体がフルオーケストラの状態で揃ってコレクションできた時、夫妻が大変喜んでいたことは感慨深く思い出されます。また、マイセンの部屋中央部に展示している貼花ポプリ大壺は、第二次世界大戦中にドイツから戦禍を逃れてアルゼンチンに移され、その後日本に渡ってきたものです。コレクションの過程には、さまざまな思い出と歴史が刻まれています。マイセンの磁器史300年のなか、制作された時代背景や個々の作品にまつわるストーリーも楽しんでいただけたら幸いです。これからもマイセンコレクションを充実させ、展示し、皆様に鑑賞していただきたいと思います。

2023年 2 月

公益財団法人美術育成財団雪梁舎
理事長 捧 実穂